

JAの活動報告書2018 (栃木県版)

あいさつ



JAグループ栃木では、「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」「地域の活性化」を基本目標として、自己改革の実践に取り組んできたところです。

一方、政府の「農林水産業・地域の活力創造プラン」では、本年5月までを「農協改革集中推進期間」としており、本年度は自己改革の実効性が問われる重要な年となります。

そこで、本会では県内JA及び連合会がこれまでに取り組んできた自己改革の実績や成果の一端を「JAの活動報告書2018(栃木県版)」として取りまとめましたので、ご一読いただけますようお願い申し上げます。

JAグループは、今年度より新たな3か年計画を「創造的自己改革の実践」と題し、自己改革の取り組みを一層強化し、農業振興と地域振興に貢献できるようすすめているところです。

また、「食と農を基軸として地域に根ざした協同組合」として、「持続可能な農業」と「豊かで暮らしやすい地域社会」を実現するために、不断の自己改革を実行し、今後とも組合員のみなさまや、地域のみなさまと共に歩んでいきたいと考えています。

令和元年 5月

JA 栃木 中央会
会長 高橋 武



「食と農を考えるフォーラム」であいさつする高橋会長。消費者に国産農畜産物の良さや農業の大切さを呼びかけました。



若手農業者と高橋会長との会談を行いました。若手農業者のみなさまからは、栃木の農業について貴重なご意見をいただきました。

目 次

1. 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に向けた取り組み

- ① 営農振興・担い手育成積立金による生産者支援（JAうつのみや）…… 1
- ② ドローン利用者拡大に向けて（JAかみつが JAかみつがサービス株）… 1
- ③ 販売営業グループによる販売力強化（JAはが野）…………… 2
- ④ 徹底した肥料価格の引き下げ（JAはが野）…………… 2
- ⑤ 米買取販売の新規取り組みと農家手取りの最大化（JAしもつけ）…… 3
- ⑥ 新技術の導入によるトマトの生産性向上（JAおやま）…………… 3
- ⑦ 農産物のインターネット販売（JA佐野）…………… 4
- ⑧ 農家の雇用労働力確保をお手伝い（JA佐野・JA足利）…………… 4
- ⑨ 新規就農を目指す若者を応援（JAしおのや 株グリーンさくら）…… 5
- ⑩ サテライト方式によるRC・CE運営の効率化（JAなすの）…………… 5
- ⑪ 高機能梨予冷庫を活用した輸出拡大（JAなす南）…………… 6
- ⑫ 高密度播種移植栽培の取り組み（JA全農とちぎ）…………… 6

2. 地域の活性化への貢献

- ① 地方公共団体との連携強化（JAグループ栃木）…………… 7
- ② 准組合員に対する情報発信（JAうつのみや）…………… 7
- ③ 楽しい給食で地産地消を推進（JAかみつが）…………… 8
- ④ デイサービス利用者に元気と癒しを（JAはが野）…………… 8
- ⑤ ポイントカードで農業振興に貢献（JAしもつけ）…………… 9
- ⑥ 給食を通じて地元農業を理解（JAおやま）…………… 9
- ⑦ 移動店舗車の活用で高齢者の生活を支援（JA佐野）…………… 10
- ⑧ ペット葬で供養を（JA足利）…………… 10
- ⑨ 児童・生徒に地元のいちごを贈呈（JAしおのや）…………… 11
- ⑩ 農福連携の取り組み（JAなすの アグリサポート）…………… 11
- ⑪ ウオーキング大会の開催（JAなす南）…………… 12

3. その他

- ① 組合員との対話活動（JAグループ栃木）…………… 13
- ② 総合事業だからできる「担い手応援隊」（JAかみつが）…………… 13

1. 「農業者の所得増大」「農業生産の拡大」に向けた取り組み

① 営農振興・担い手育成積立金による生産者支援

JAうつのみや

意欲ある農業者や農業経営を開始する農家後継者への支援のため、積立金を設け、生産者への直接支援を積極的に進めています。

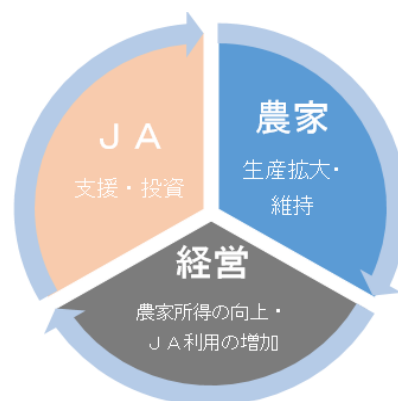
<実施事業>

- ① **親元独立経営支援事業**……農家後継者で独立経営を開始する場合の経営確立・発展を支援
- ② **園芸施設導入支援事業**……園芸作物の新規・生産拡大に対し、施設の導入を支援
- ③ **簡易パイプハウス支援事業**……少量多品目栽培の取組みに係るパイプハウス導入を支援
- ④ **梨生産力向上支援事業**……JA梨専門部員で新規植栽・改植時の苗木導入に対し支援

【30年度支援の状況】 約4,100万円（55名）

【支援効果（試算値）】

・園芸施設導入支援事業	作付面積	10.2ha拡大
	販売額	1億4,800万円増加
	農家所得	7,200万円増加
・梨生産力向上支援事業	作付面積	1.8ha拡大
	販売額	4,700万円増加
	農家所得	2,200万円増加



積立金運営サイクル

組合員の経営確立・規模拡大に向け、今後も支援を続けていきます。

② ドローン利用者拡大に向けて

JAかみつが JAかみつがサービス(株)

高齢化する農業者の労働軽減を図り、かつ、効率的・効果的な除草剤散布作業の期待に応えていくため、JAかみつがサービス(株)は、平成29年12月にドローン利用者協議会を設立しました。



<ドローン協議会安全講習会の様子>

ドローン所有者の操作技術・安全運航を図るとともに、講習会等により農業の新たな知識習得を図り、農業の近代化と後継者の育成も行っています。

新技術の普及により農業の効率化とともに、地域農業の維持に貢献します。

③販売営業グループによる販売力強化

JAはが野

2017年度より、販売営業グループを設置、**市場ニーズをいち早くキャッチ**し、有利販売に努めています。

市場やスーパー等に積極的に出向き、価格交渉・値決め販売等を強化するとともに、パッケージングの提案等も取り組み、量販店の売り上げ向上にも貢献しています。



＜2018年3月 都内量販店でトマト部会とともに対面試食販売＞

今後も実効ある販売営業活動に取り組んでいきます。

④徹底した肥料価格の引下げ

JAはが野

コメ生産に係るコスト削減を図るため、JAはが野では、徹底した**肥料価格の引き下げ**に取り組んでいます。

水稻肥料（春肥）	28年産	30年産	
BBひとつりくん1号	3,690円	⇒ 3,150円	540円削減
BBひとつりくん2号	3,420円	⇒ 2,970円	450円削減
ひとつりくんプレミアム1号	3,310円	⇒ 2,980円	330円削減
BB側条スーパー1号	3,170円	⇒ 2,730円	440円削減
飼料用米専用肥料	28年産	30年産	
BB-211	2,090円	⇒ 1,750円	340円削減
大口利用都度値引き(1%~4%) (H29.3.1~H30.2.28)		生産資材助成金(3%) (H29.3.1~H30.2.28)	
26,381千円(対象者1,227名)		23,765千円(対象者1,904名)	

また、**労力軽減**の取り組みとして、**流し込み肥料「BB水口ポン太」と、顆粒流し込み農薬**の取り扱いを開始しました。省力化だけでなく短時間で追肥作業や除草剤の散布をすることができ、**人件費等のコスト削減**にもつながります。

米生産のコスト削減に取り組み、**組合員の所得増大**に貢献します。

⑤米買取販売の新規取り組みと農家手取りの最大化

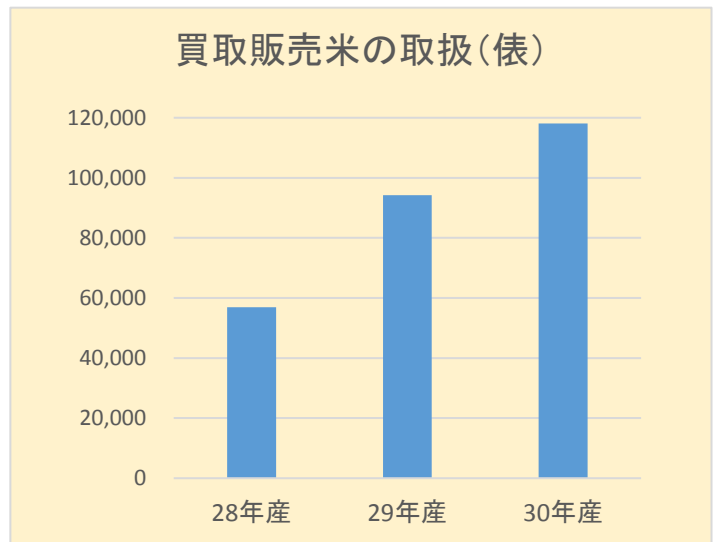
JALしもつけ

JALしもつけでは、平成28年産より米の買取販売をはじめました。また国の交付金を活用し、農家手取りの最大化に取り組んでいます。

平成28年産は「あさひの夢」、29年産からは「とちぎの星」でも実施しました。

30年産では買取数量が118,091俵となり、販売力強化の大きな源泉となっています。

あわせて主食用米と加工用米や飼料用米・米粉用米等を組み合わせた米の複合経営、つまり1俵（60kg）いくらかではなく、**1反（10a）いくらかを提案**していきます。



今後も買取販売を拡大し、組合員の所得増大に貢献します。

⑥新技術の導入によるトマトの生産性向上

JAおやま

JAおやまでは、「栃木県次世代施設園芸支援協議会」の一員として、施設園芸の新技術の実証に取り組んでいます。「**低コスト耐候性ハウス**」と「**高度環境制御技術**」の組み合わせにより、トマトの生産性向上と経営規模の拡大を支援します。



＜導入する環境制御技術＞

- ・換気窓制御（天窗・サイド換気）
- ・カーテン制御
- ・暖房制御
- ・CO₂制御（光合成促進機）
- ・空気攪拌制御

協議会は、**JA・生産者のほか、県・市、JA中央会・JA全農がメンバー**となり、各技術の検討・実証を行います。

実証の成果を広く地域に普及し、トマト生産の拡大に取り組めます。

⑦農産物のインターネット販売

JA佐野

耕そう、大地と地域の未来。JAグループ



JA佐野では、2017年に「JA佐野楽天市場店」をオープンしました。

農家と高付加価値商品を開発するとともに、市場出荷以上の手取りとなるように価格を設定して出品しています。

【売れ筋ランキング】

- 1位：スカイベリー2パックセット
- 2位：スカイベリー&とちおとめ各1セット
- 3位：訳アリキュウリ5kg



楽天の全ショップのうち、購入者からの評価が上位1%である「2019年4月度月間優良ショップ」に選ばれました。

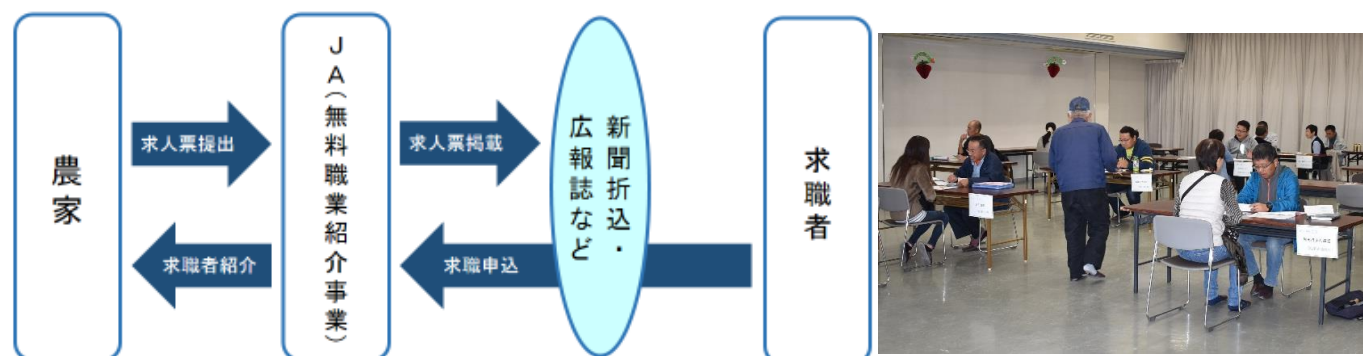
今後も農産物の直接販売を通して、組合員の所得増大に貢献していきます。

⑧農家の雇用労働力確保をお手伝い

JA佐野・JA足利

農業生産を維持・拡大していくためには、農家の雇用労働力確保が急務になっています。

JA佐野・JA足利では、農家の雇用労働力確保を支援するため無料職業紹介事業を行っています。JA広報誌や新聞折込等で求職者を募るとともに、ハローワークとの合同説明会を開催しています。



平成30年度はトマト農家やイチゴ農家を中心にJA佐野で11件、JA足利で46件の雇用を斡旋！

今後も農家の労働力確保に向け、引き続き取り組んでいきます。

⑨新規就農を目指す若者を応援

JALおのや (株)グリーンさくら

新規就農者を確保・育成するために、JA出資法人による農作業実践研修とともに、JA職員および関係機関の職員が講師となつての農業経営講座により、農地・ハウス・堆肥等、農家に必要な技術・知識の習得を1年間かけて支援します！



平成31年3月までの6年間で**41人の研修生**を受け入れ、
うち**36人がJA管内で就農**しています。

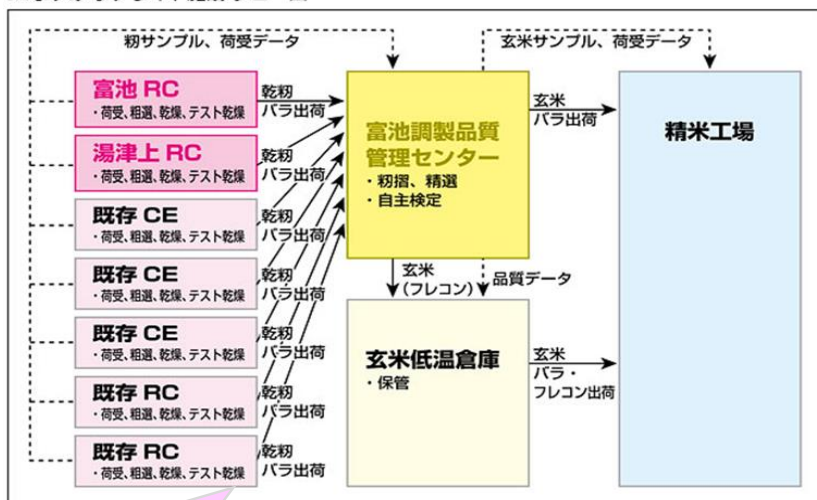
今後も地域農業の活性化・担い手不足解消のため、新規就農者の育成に力を入れていきます！

⑩サテライト方式によるRC・CE運営の効率化

JAなすの

RC（ライスセンター）・CE（カントリーエレベーター）をサテライト方式で運営することにより、均質な米を安定して供給することが可能となります。
これにより**ブランド力を高め**、バラ化率を向上し**物流コストを低減**します。

JAなすの サテライト施設 フロー図



新規 黒磯RC(H30.9稼動)

安定的に高品質のコメを供給することにより販売価格を維持し、組合員の所得確保に貢献します。

＜サテライト方式とは＞

- ①各地区の施設が荷受・一次乾燥
- ②調製品質管理センターが調製と役割を分離・明確にし、各施設を効率的に稼働させる運営方式

また、施設の維持管理コストをトータルで削減できます。

⑪ 高機能梨予冷庫を活用した輸出拡大

JAなす南

JAなす南梨部会は、30年産梨を、県産として**8年ぶりに香港へ輸出**しました。高品質で輸出できるように**高機能梨予冷庫を導入**しました。



輸出用に選果し、専用箱に箱詰めします。



アジア7か国から**海外バイヤーの視察を受け入れ**、JA選果場と部会員のほ場を案内。試食もして、糖度や生産量について産地の理解を深めました。

これからも部会・JAが一体となって輸出拡大を目指します！！

⑫ 高密度播種移植栽培の取り組み

JA全農とちぎ

水稲作業の省力化・低コスト技術の確立を目指して、**高密度播種移植栽培**の普及・推進に取り組んでいます。



＜左が慣行栽培、右が高密度播種＞

大規模生産者を中心に大幅に取組面積が増加しました。

【栽培の概要】

	(高密度播種)	(慣行栽培)
1箱当たり播種量	268g	156g
10a当たり箱数	9箱	14.5箱

＜実証試験結果＞

比較項目		高密度播種
平均収量kg (慣行比%)		564(108.9%)
10aあたり粗収益 (円)		89,147円
慣行栽培との比較	粗収益差 (a)	6,018円
	コスト差 (b)	3,617円
	メリット (a+b)	<u>9,635円</u>

JAグループでは

今後も担い手の生産コスト低減の取り組みを推進していきます！

2. 地域の活性化への貢献

① 地方公共団体との連携強化

JAグループ栃木

平成30年11月14日、JAグループ栃木（代表して中央会）と栃木県は包括連携協定を締結しました。JAグループが取り組む「地域の活性化」の一環で、農業の振興および地産地消の推進、地域および暮らしの安全・安心の確保など10の分野が対象となっています。

県内のJAは、それぞれ市や町と連携協定を締結し協力体制を構築しています。



包括連携協定10の分野

- ① 農業の振興及び地産地消の推進に関する事
- ② 県ブランド及び観光の振興に関する事
- ③ 地域及び暮らしの安全・安心の確保に関する事
- ④ 高齢者及び障害者支援に関する事
- ⑤ 健康の増進に関する事
- ⑥ 環境の保全に関する事
- ⑦ 災害時支援に関する事
- ⑧ 地域産業の振興・支援に関する事
- ⑨ 子育ての支援及び青少年の健全育成に関する事
- ⑩ その他、地域の活性及び県民サービス向上に関する事

協定の内容を実行し、住みよい地域づくりに貢献します！！

② 准組合員に対する情報発信

JAうつのみや

JAうつのみやは、准組合員対象の広報紙「アグリうつのみやJOIN」を8,000部作成し、年2回（4月・12月）送付するほか、アグリスクール等イベントで配布、直売所への掲示、渉外担当者による組合員加入のアイテムなどに活用しています。

准組合員は、貸付など一部の事業利用をきっかけにJAに加入するケースが多いため、広報紙を通じてJAの各種事業や組織について理解を深めていただいています。



准組合員に情報を発信し、JAへの理解を深め、農業振興の応援団になっていただく取り組みをすすめます！！

③楽しい給食で地産地消を推進

JAかみつが

JAかみつがは、管内の鹿沼市および日光市の教育委員会にランチョンマットと教材本（2種）を贈呈しました。この取り組みは全JAで行っています。

ランチョンマットは、未来を担う子どもたちに栃木県産農畜産物への理解を深めてもらうこと、および子どもたちの健やかな成長を願って、JAグループが取り組む「みんなのよい食プロジェクト」の一環として県内小学校新入学児童に贈呈しています。

教材本は、本県の農業およびJAへの理解を深めることを目的に、「とちぎの農業」（中央会作成）は3年生、「農業とわたしたちの暮らし」（農林中金作成）は5年生に贈呈しています。



次代を担う子どもたちの健やかな成長を応援します！！

④デイサービス利用者に元気と癒しを

JAはが野

JAはが野は、デイサービスセンターにコミュニケーション型介護ロボット「PALRO（パルロ）」を導入しました。

パルロは、人工知能（AI）を搭載した人型ロボットで、利用者と歌ったり体操したりするほか、利用者の顔や名前を覚えてその人に合った会話ができます。

パルロの導入により、介護スタッフが利用者のサポートに専念することで、より質の高いサービス提供を目指します。



ロボットに合わせて体操をする利用者

介護ロボット等を活用し、要介護者の自立を支援します！！

⑤ポイントカードで農業振興に貢献

JALしもつけ

JALしもつけは、平成29年から管内の農産物直売所で共通して使えるポイントカード「ポチカ」を発行しています。

200円の買い物ごとに1ポイント（1ポイント1円換算）が付き、貯めたポイントは10ポイント単位で利用できます。

会員数は2万6千人を超え大変好評です。



直売所の売り上げ増加により農業生産の拡大に取り組みます！！

⑥給食を通じて地元農業を理解

JAおやま

JAおやまは、幼稚園や小中学校（約30校）にお米やホウレンソウ、ダイコンなどの野菜を供給しています。

給食用食材を提供した生産者が給食会に参加して、子どもたちの質問に答えることで、地元産農畜産物や農業への理解を深めてもらいます。



生徒と交流する生産者

安全・安心な食材で学校給食を支援します！！

⑦移動店舗車の活用で高齢者の生活を支援

JA佐野

JA佐野は、平成29年3月から移動金融・購買店舗車（アイクル号）を運行しています。

中山間地域の高齢者は貯金の出し入れや買い物に不自由する人が多く、これらの方々のために普通貯金の入出金や各種税金、公共料金の払い込みにも対応する金融スペースを設置したアイクル号が曜日を決めて集会所等に出向いています。アイクル号には食料品や日用品も積んでいるため買い物にも便利です。

アイクル号が来る日は近所のお年寄りが集まり、楽しい会話がはずみます。



高齢者が住みよい地域をつくっていきます！！

⑧ペット葬で供養を

JA足利

JA足利は、移動火葬車を使ったペット葬を行っています。家族の一員であるペットを安らかに送ってあげたいという地域住民の要望に応じて開始しました。

ペット葬では、線香をあげ、納骨のできるお寺まで用意しており、愛犬家の方などに大変喜ばれています。



地域住民の要望に応える取り組みをすすめます！！

⑨児童・生徒に地元のいちごを贈呈

JALしおのや

JALしおのやは、管内小中学校の給食用として地元で収穫されたいちご「とちおとめ」を贈呈しました。この取り組みは、子どもたちに栃木県が日本一のいちご産地であることを理解してもらうことを目的に、全JAで行っています。

子どもたちは、デザートの一ちごを楽しみにしており、子どもたちの農業に対する興味が深まり、農業者をめざすきっかけになればと期待しています。



子どもたちに地元の農業を理解してもらう活動をすすめます！！

⑩農福連携の取り組み

JAなすのアグリサポート

農福連携は、農業生産の現場で障害のある人たちを雇用する取り組みです。

JAなすのの子会社「JAなすのアグリサポート」は、管内の障害者福祉サービス事業所の利用者を農業生産の現場で受け入れています。

障害者は、野菜の播種や苗植え、収穫などの作業を通じて、自信や生きがいにつながっています。



農福連携で障害者支援をすすめます！！

JAなす南は、「健康寿命100歳プロジェクト」の一環として、平成30年9月、合併20周年を記念したウオーキング大会を開催しました。

7回目の開催となった今回は、地域住民161人が参加し、6キロと9キロコースに分かれて歩きました。地元の自然を見ながら、参加者同士楽しく、健康づくりができると好評です。



地域住民の健康増進に貢献しています！！



31年3月31日に、JAグループ栃木の特別協賛で「5時間リレーマラソン」が開催されました。

JAグループからは13チームが参加し、高橋会長も選手として出場しました。

優勝チームには**栃木のおいしいお米「とちほのか」**が贈呈されました！



3. その他

①組合員との対話活動

JAグループ栃木

組合員の要望や意見を聞いたり、またJAの活動を広く知ってもらうため、組合長をはじめ常勤役員や職員が組合員のお宅へ訪問し、直接対話をしています。

その結果、たくさんの意見や要望が出されるとともに、JAの活動にも熱心に耳を傾けてもらいました。いただいた意見・要望は、自己改革の実践を通じて組合員にフィードバックします。



組合長と対話する組合員
「組合長に直接話せた!」と好評です。

金融渉外と営農経済渉外による
事業間連携訪問



これからも対話運動を継続して、よりよいJAを目指します!!

②総合事業だからできる「担い手応援隊」

JAかみつが

JAでは、「営農・経済」と「信用・共済」部門の担当者が2人一組となり「担い手応援隊」を編成して、担い手を訪問し情報提供や要望・意見を聞くという活動を展開しています。

「担い手応援シート」などのツールを活用して経営状況・意見要望の把握や、JAからの情報提供や提案を行うことにより、担い手との関係強化を図りました。

訪問活動後は、活動報告ミーティングを実施する他、定期的に活動検討会や報告会を開催しています。



全体ミーティングの様子

担い手のみなさんからは、「JAがないと困る」「JAを応援する」など、たくさんの期待の声をいただきました!!

県内JA一覧

●JA

JA うつのみや	〒320-0031 宇都宮市戸祭元町3-10 TEL 028-625-3380 ホームページアドレス https://www.jau.or.jp/
JA かみつが	〒322-0044 鹿沼市鳥居跡町983-1 TEL 0289-65-1000 ホームページアドレス http://jakamituga.jp/
JA はが野	〒321-4303 真岡市八条95 TEL 0285-83-7701 ホームページアドレス https://www.ja-hagano.or.jp/
JA しもつけ	〒328-0053 栃木市片柳町2-1-44 TEL 0282-24-1180 ホームページアドレス http://www.ja-shimotsuke.or.jp/
JA おやま	〒323-0034 小山市神鳥谷1-11-32 TEL 0285-25-3155 ホームページアドレス http://www.ja-oyama.or.jp/
JA 佐野	〒327-0007 佐野市金吹町2351 TEL 0283-20-2000 ホームページアドレス http://jasano.jp/
JA 足利	〒326-0036 足利市弥生町20 TEL 0284-41-7151 ホームページアドレス https://www.jaashikaga.or.jp/
JA しおのや	〒329-1312 さくら市桜野1670-2 TEL 028-681-7555 ホームページアドレス https://www.ja-shionoya.or.jp/
JA なすの	〒325-0017 那須塩原市黒磯6-1 TEL 0287-62-5555 ホームページアドレス http://janasuno.jp/
JA なす南	〒324-0513 那須郡那珂川町白久10 TEL 0287-96-6150 ホームページアドレス http://www.ja-nasuminami.or.jp/

※上記の10JAは、各市町に窓口があり、その数は約250におよびます。

JA 栃木中央会	〒321-0905 宇都宮市平出工業団地9-25 TEL 028-616-8500 FAX 028-616-8590 ホームページアドレス https://www.tcchu-ja.or.jp/
農林中央金庫宇都宮支店	〒321-0905 宇都宮市平出工業団地9-25 TEL 028-305-4910 FAX 028-683-6501
JA 全農とちぎ	〒321-0905 宇都宮市平出工業団地9-25 TEL 028-616-8800 FAX 028-616-8808 ホームページアドレス http://www.tc.zennoh.or.jp/
JA 共済連栃木	〒320-0027 宇都宮市塙田4-2-15 TEL 028-616-1111 ホームページアドレス https://www.ja-kyosai-tochigi.com/



JAマークについて

JAマークのデザインは「ゆるぎない大地」「日本の国土」をイメージしています。三角形は「自然」、Aの部分は「人間」を表しています。また、左側にある円は「農業の豊かさ・実り・人の和」を表しています。

「みんなのよい食プロジェクト」

JAでは「みんなのよい食プロジェクト」に取り組んでいます。

「みんなのよい食プロジェクト」とは、農産物をつくる人と食べる人が一緒になって“よい食”について考え、国産の野菜や肉をみんなでもっと食べようとする運動です。



シンボルマーク笑味(えみ)ちゃん

各JAの概要



県内10JAの主要事業の概況

事業区分	金額(億円)	備考
販売事業	1,121	農畜産物の取扱高
購買事業	443	生産資材、生活物資の取扱高
信用事業	17,338	貯金残高
	3,024	貸出金残高
共済事業	47,716	長期共済保有高(保障金額)

※データ:各JAの「ディスクロージャー誌」(平成29事業年度)より



JA栃木中央会